

メロン接ぎ木苗生産技術講習会を実施しました。
～農業科3年生と農業科2年生がイバラキングの接ぎ木苗づくりに取り組みました～

1月24日（水）に、農場管理棟で、メロン接ぎ木苗生産技術講習会を実施しました。鉾田地域でメロンの接ぎ木苗生産に取り組んでいる鉾田園芸出荷組合代表の山口正重氏を講師に招いて、農業科の3年生11名と農業科2年生5名がメロンの接ぎ木に挑戦しました。

山口氏から、接ぎ木の種類や利点などについて説明を聞いた後、土壌病に強い品種を台木、イバラキングを穂木として、「刺し継ぎ」という方法で接ぎ木に取り組みました。

生徒は、先端の細い竹串を使って、台木の茎に穴をあけて、カミソリで細く削った穂木の茎を挿しました。細かい作業ですが、慣れるとスムーズに作業をすることができました。3年生は今回で3回目の講習会となるので、手際よく接ぎ木をすることができました。

接ぎ木苗は、たっぷりと水を与えた育苗用のポットに移植して、保温シートを10日ほどかぶせたまま加温して、25℃程度で高湿度状態にして、穂木と台木のゆ着を促します。

その後、保温シートを外して、かん水などの管理をして、接ぎ木苗を育てます。イバラキングは、低温肥大性が高いので、2月下旬から温室で栽培して、5月下旬から6月上旬に出荷する予定です。農業科では、高品質のイバラキングの収穫を目標にして、栽培に取り組みます。

【講習会のようす】

